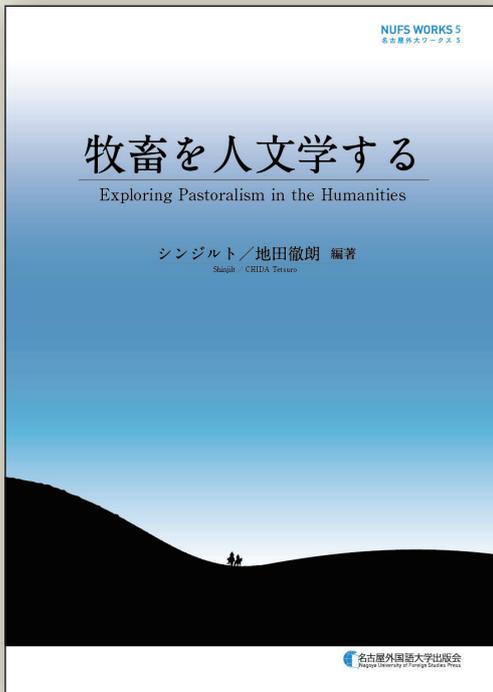


1冊からお気軽にご注文ください。

牧畜を人文学する



シンジルト、地田徹朗・編著

A5判 250頁 定価 2,200円(税込)
ISBN 978-4-908523-29-8 C0039
ブックレット「名古屋大ワークス5」

3月25日発売

ユーラシアからアフリカまで、世界の牧畜の今がわかる本。
人間と家畜と草原の共生、牧畜と牧畜社会の在り方を、
日本のえりすぐりの研究者が描き出した。

近代国家や新自由主義、グローバリズムの行き詰まり、コロナ禍など、閉塞状況にある世界への大いなるヒントとアイデアに満ちている。

12名の執筆者は、文化論、社会人類学、歴史学の研究に携わる。狭い研究領域に閉じこもることなく、様々な角度から牧畜社会の現状と歴史を描く。高校生にも読めるわかりやすさ。現地取材にもとづく具体的な「ルポルタージュ」も魅力。人類学、環境論、比較文化、地域研究の教科書にも好適で、高校生、大学生、さらには広く、ユーラシアやアフリカの社会・文化・歴史に興味をもつ一般読者にもおすすめ。牧畜民にスマホが似合う理由を知りたい人に!?

第Ⅰ部 「変遷」では、歴史的アプローチを基本に、牧畜民の集団的な価値観を歴史的に描写する。
第Ⅱ部 「境遇」では、今日の牧畜民の社会的境遇や国家とのかかわり、グローバリズムに対する〈牧畜民の生活戦略〉を解説する。
第Ⅲ部 「共生」では、人間と家畜と草原の調和関係がもたらす社会的共生の形態について考察する。
牧畜社会におけるエスニシティとエコロジーの相関に関する研究成果(科研費・基盤B)を踏まえた。写真、地図、図表などのカジュアルな要素も多用している。

第Ⅰ部 「変遷」	①ユーラシア牧畜民がリーダーに求めたものとは?…血と力	秋山徹(早稲田大学)
	②アフリカ牧畜民は帝国をどう経験したのか?…移動と境界線	楠和樹(京都大学)
	③ロシアの牧畜民はなぜ魚も好むのか?…定住化と生存戦略	井上岳彦(大阪教育大学)
	④ソ連はカザフに何をもたらしたのか?…遊牧民と近代化	地田徹朗(名古屋外国語大学)
第Ⅱ部 「境遇」	⑤ヒマラヤ牧畜民の暮らしに大切なものは何?…交換と分業	宮本万里(慶應義塾大学)
	⑥エチオピアの遊牧民はなぜ畑を耕すのか?…生業と国家	田川玄(広島市立大学)
	⑦トルコの遊牧民は時代遅れか?…帰属意識と文化	田村うらら(金沢大学)
	⑧土地の私有化はモンゴルになぜなじまない?…移動と開発	上村明(東京外国語大学)
第Ⅲ部 「共生」	⑨シベリアでトナカイがはぐれたらどうする?…自助と互助	大石侑香(神戸大学)
	⑩チベットの牧畜民にとって親族とは何か?…集団と越境	シンジルト(熊本大学)
	⑪ナイル牧畜民はなぜ敵を助けるのか?…動物といのち	波佐間逸博(長崎大学)
	⑫ユーラシア牧畜民の英雄叙事詩とは何か?…敵と味方	坂井弘紀(和光大学)

ご注文について

お近くの書店や各種インターネット書店でお求めいただけます

名古屋外国語大学出版会

Nagoya University of Foreign Studies Press

470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57 番地 TEL:0561-75-2503 (直通)

facebook QRコード



mail ▶ nufs_press_gg@nufs.ac.jp

出版会 HP ▶ <https://nufs-up.jp>

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/wlacpress/>